

・・・雨でも休まず、277, 278回、・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

・定例活動1：2月6日（第一日曜日）；今年、最初の森林整備活動

担い手育成、技術向上の森：弁当持参、参加費：400円

\*1月は、「地域のルールで。10日までは森林作業をしない」というシキタリに従いお休みにしました。そこで、活動13年目の「小原本陣の森」今年、最初に活動です。

・定例活動2：2月17（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動。

\*参加費400円、主食・自分の汁椀、飲料水。

\*注意1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ。

・服装：汚れても良い服装、着替え・滑らない靴。

・持参：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水

\*注意2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### ・・・森の恵み・・・

若い頃は、海・山・・・と随分、遠くまで出かけて行った。今は近場の森林整備で、“森の恵み”を満喫している。そこで、「森の恵み」・・・を考えてみた。

先ず、新鮮な空気が旨い。木の葉は、光合成による炭酸ガスと水から炭水化物をつくり新鮮な酸素を放出する。森林は、1haで60人以上の人に新鮮な空気を与えてくれる。空気なしでは普通の人は、3分と生きられない。因みに、我が国の森林面積は1500万ha、2.5～5億人の日本人が賄える森林がある。温暖化を防ぐ二酸化炭素の固定化が世界の共通の課題になっている。

次に緑・森のダム機能：降った雨を土壤に浸透させユックリ放出して洪水の防止、飲料水を提供する。飲料水なしでは、人間は1週間も持たない。日本の森の保水量は、2900億t。相模湖ダムの1500湖分。その他に、崩壊防止、騒音防止、鳥獣保護、気温・湿度調整、暴風防止など。

空気・水と森林が、土壤をつくる機能が働かずしては、生命機能が存在出来ない。また、美しい森での心の癒し効果。爽やかな気分で疲れが取れる。風の音、鳥・虫の声・枝葉のざわめき、沢のせせらぎ等・・・、ゆったりと共振する。これを「ゆらぎ効果」という。

四季折々の自然の色も視神経に優しい。樹木の出す揮発性の芳香、フェトンチッド（六環員炭化水素類）が疲労回復を早める。滝つぼや沢の渓流れ、樹々のざわめきが、マイナスイオンとなって脳神経のアルファ波を安定させる（森林総研：宮崎研究員）。フェトンチッドは、血圧の安定にも効果を発揮する。群馬医大付属病院（下村教授）で森林浴を治療に採用している。

NPO活動の森での義務を伴わない労働は、心地よい疲労となり神経・筋肉を弛緩させる（石村記）

# “雨でも休まず・・・”の13回目のお正月、明けましておめでとうございます。

\* 森林事業への責任と使命感に身の引き締まる想いです。今年も意義ある活動を目指します。

.....

理念：森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してならない・・・、具現化に向けて。

事務局長・理事：石村黄仁

理念は、活動のブレない最も大切な“想い”であり、その想いの下に森仲間が集まっている。想い続けたら、FSC(森林管理協議会：本部・ドイツ・ボン市)の森林に対するガイドラインがあった。その指導は、「環境・経済・社会の調和」であり、中身は“10の原則、56の細則”が書かれていた。それを実践することに専念した。その結果、“活動はブレル”ことなく「世論を動かす力」となって社会的に認知されつつある。

全く以て我々は、黙々と森の中で汗を流すしか能がない。何か良い事は、向こうからやってくる。どうしようこうしようと計算したことはない。唯、直向きに荒れた森を、このママにしてはおけないと言う思いだけで活動を実践して来た。

森を守る作業を実践していると、外からもいろんな情報が入って来た。実践の中身と照らして、その情報の正誤が判断出来た。外への発信には、より注意深く検討して事実のみを発信する事に心掛けた。

随分と沢山の人々と交流が始まっている英国やオーストラリアなど外国からも人々が訪ねてきた。この方々とは今も交流が続いている、今年は、中国からの大勢の参加予約も来ている。毎日新聞社の水と緑地球環境本部のご支援は、当会に大きな自覚をもたらした。

<p>FSC：10の原則</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1、全ての法律や国際的な取り決め、そしてFSCの原則を守っている。</li><li>2、森林を所有する権利や利用する権利が明確になっている。</li><li>3、森に暮らす人々の伝統的な権利を尊重している。</li><li>4、地域社会や労働者と良好な関係にある。</li><li>5、豊かな収穫があり、地域からも愛され利用される森である。</li><li>6、多くの生物が住む豊かな森である。</li><li>7、調査された基礎データに基づき、森林管理が計画的にチェックに実行されている。</li><li>8、適切な森林管理を行っているかどうかをチェックしている。</li><li>9、貴重な自然の森を守っている。</li><li>10、人工林の形成が自然の森に影響を及ぼしていない。</li></ol>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

新しい交流も増えている・・・ 去年は、平塚に“緑のダム・湘南の森”が出来た。“緑のダム・北鎌倉”も健在だ。「生命の森宣言・東京」と小原本陣の森活動を協働している。世田谷の「NPO みんなの森」が、いろんなことを手伝ってくれている。全日本インストラクター協会からの参加も増え始めている。More trees (坂本龍一事務所)との交流が始まった。

1,998年 活動開始、 2002年 法人認証、 2005年 国際FSCの森認証、神奈川県との森林整備協働開始、 2007年 国土緑化推進機構会長賞・受賞 2008年 国際ソプロチミスト協会感謝状、2009年 相模原市と森林整備市民協働開始

相模川流域をつなぐ他の団体との交流は、「森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない」という理念を共有し、お互いに共鳴・コラボ(collaboration:協働)している。想いに求心力が、働いているからだ。月尾名誉教授(東大)のご指導の通り、当会活動が、世論を動かし始めた。時代の流れも後押ししてくれている。

小原本陣の森・定例活動 12月6日(第一日曜日)

ForestNova☆ 麻布大学2年 金井孝平

12月に入り活動後は寒くなり、風邪などひかないよう防寒対策が本格的に必要なになってきました。12月6日は冬至の2週間前ということで一番日の短い日だったので早めに山を降りました。

今回の活動は中里山での土留め作業を中心に活動しました。土留めとは斜面の土が下に流れるのを防ぐ大切な作業です。

午前中は前回の続きの場所で作業をし、午後はまだ土留めがされていない場所を探し積極的に活動しました。活動している所の斜面は急で落ちないように気をつけながら作業をするのはとても大変でしたが、有意義な活動ができました。

今回は活動の他にも東京大学院の教授である酒井先生に刃物の研ぎ方を教えて頂きました。鉋や鋸を使う以上、それを定期的に手入れすることの大切さを実感できました。今後は自分たちで手入れをしていきたいです。



とても大変な作業ですが、「いつも楽しく元気よく」をモットーに活動を続けていきたいです。これからも ForestNova☆らしさを出して活動を続けていきたいです

.....

金井学生の投稿は、今回が初めてですが、ストレートに現場状況が表現されています。本当にここは急斜面で多分、25~30度の傾斜です。30度傾斜は、上から見下ろすと崖と感ずる程です。上左写真を見ると、その状況が分かると思います。上右写真も実に丁寧な作業をしているなど感心します。彼らが如何に真剣に誠実に取り組んでいるかの証です。

ここは、県との協力協約契約の森林整備ですが、神奈川県・相模原市の検査員から合格の評価を得ました。石村として実は、こんな難しい場所が検査基準を満たしている事に驚いています。

こんな若者が当会と一緒に活動してくれていることを、感謝と同時に誇りに感じています。

石村 記

豊かな継続の森へ・・・、

真冬のピーンと張り詰めた、冷たい空気。今年、最後の活動日。13年目の第一月目に入る。

望星の森（東海大付属：望星高校）は、学校行事でお休み、少し人数の足りない今日だが、ユニークな初参加者は「キノコ博士・河内先生」他、東大卒論のための森林現場体験の志村学生ら4名の初参加を加えて46名、和やか！。冷えた体をほぐす、学生連合 Forest Nova の斎藤駿一学生の好（恒）例の準備体操から始まる。

お花畑班は、土が凍っているなので、午前は活動終了後のお楽しみ「焼き芋づくり」の準備。まず、豊富な落ち葉をセッセと集め、サツマイモを濡れた新聞紙とアルミホイルで練るんで落ち葉の中に放り込む！。嬉し・楽しみな作業は、サッサカ、サッサカ、みんな手際よく速い。

学生連合と一般参加者は、林業プロの高橋林業・高橋さんから一年の総まとめの講義、陽の当たらない場所でチョッピリ寒そうでしたが、熱気ぷんぷん。高橋講師、寒さものともせず、さすがキタエテル！。

今年を振り返ると又、何んとたくさんの様々多様な人々の参加があったことだろう。

海と森を繋ぐという築地仲卸のボス経験の片又氏、野鳥詳しい佐藤陽子さん、生態系（植物・動物）の内野先生（全国森林インストラクター協会理事）、林道つくりのスゴ腕・酒井秀夫先生（東大教授）、その愛弟子・田中正幸院生は、トウトウはまって会員登録・毎回参加。梶山恵司さん（富士通総研 — 内閣府審議官）は家族ずれでの参加。毎日新聞社からは、水と緑地球環境本部の山本部長。more trees（坂本龍一事務所）との交流・・・。

家族連れの赤ちゃんから、小・中・高・大・院・熟年・高齢まで、森で・・・、色んな体験、活動をして頂いた。大学教授、林業専門家他、素晴らしいご指導で沢山の若者が森林現場の実践の教えを受けた。何でも今年も、学生連合 Forest Nova は、12月26日、27日の「全国大学・学生エコ・コンテスト」に出場して優勝を狙うとか（結果は、来月号で報告）。

また、「小原本陣の森（第一日曜日活動）」では、地域の絆を育てつつ“林地団地化・集約施業”と言う最先端の森林整備に取り組んでいる。地域の絆とは、相模原市がバックアップしている「小原宿活性化推進協議会」とのコラボ（collaboration：協働）による地域活性化運動の事。

そこで、大坪班長指揮の木工班は、小原の森から出た間伐材で作ったベンチが好評で、相模湖福祉協議会から大量の注文を受けて“小原の郷”に出張製作。相模湖商工会との協働企画による「森つくりモノつくりコンテスト」は最早、全国版で昨年は、全国から341点の応募もあった。

継続は力なり！、来年も楽しみつつ、地球にも恩返しをしましょう。



11月15日(日)の嵐山定例活動には、鶴の台小学校の4年生を中心とした小学生20人余りが参加していました。小学生は、午前中は内野さんに案内されて嵐山を散策・観察し、午後はForest Nova☆が案内しました。



まず初めに、お互いが打ち解けるために、「葉っぱじゃんけん」という簡単なゲームを行いました。小学生たちは想像以上に元気いっぱい、すぐに私たちと打ち解けてくれました。最初は恥ずかしがっていた子ども、ゲームが終わるころには元気よく、「葉っぱじゃんけん、はっぱっぱ!!」と掛け声をかけていました。



森の中に入ってまず行ったのは、「音を聞く」ということです。静かに耳を澄ますと、普段は気付かない様々な音が聞こえてきます。聞こえてきた音は、自分の思った通りに紙に書き込んでいきます。このネイチャーゲームは雑木林と人工林の中の2か所で行いました。同じ森でも聞こえてくる音に違いがあり、住んでいる生き物が違うことを感じてもらいたかったからです。人工林で行うと、とたんに「鳥の声が少ない!」と多くの子供から声が上がりました。さっきまで騒いでいた男の子も、雑木林と何が違うかを友達同士でささやきあい、いろいろな音を一生懸命聞こうとしていました。



次に行ったのは、「小さな世界を見る」ということです。足元をよくよく観察すると、いろいろなものがあることに気がきます。小さな虫や何かの卵を発見する子もいれば、木肌がけげげげしていることに驚いていた子もいました。また、少し暗くなっている場所も観察しました。こちらは時間がなくてゆっくりとは行えませんでしたでしたが、暗いところには植物

が育たないということを実感してくれたようでした。

最後には、今日見てきた森についてのクイズをまとめとして行いました。小学生たちからは、「日本には暗くて悪い森が増えているのをはじめて知った」などの感想を聞くこともでき、日本の森がどうなっているのかということが少しでも伝わったことがわかってとても嬉しかったです。これからもいろいろな年代の人たちに、森を伝えていきたいと思いました。

.....

この報告はまるで自分が、その場にいるような臨場感があります。実によく観察しているものだあ〜と感心させられます (石村記)

## カブトムシ幼虫101匹

桂北小学校の4年生、今年もカブトムシの幼虫を、嵐山の宝箱から100匹ゲットしゲットして、飼育を始めました。

11月11日今にも降りそうな曇り空を仰ぎながら、嵐山にたどり着き、「山のお友達を見つけよう！」と、「葉で見分ける樹木」の、資料を片手にいろいろな樹木と、対話が始まりました。「この木何の木？」の体験もして、山のお友達が見えてきました。大きな葉のお土産も出来ました。



お楽しみの「山の宝箱」は、もう3年目、先輩が毎年栗の落葉を詰めてくれています。みんなでひっくり返して、腐葉土をそーっとかき分けると、いるわ！いるわ！カブトムシの幼虫がごろごろ！手分けして学校に持ち帰りました。

今の5年生が使っていた水槽を引き取り、学校で作った腐葉土を入れて、5箱も飼育が始まりました。合計で何と！101匹の幼虫になりました。5年生の夏まで、毎日の飼育が始まります。「カブトムシ堆肥」も野菜作りに使います。

報告: 齋藤 憲弘

## 嵐山探検と落葉集め

11月24日、1年生と2年生合同で、嵐山に入りました。すぐ近くから通っている子もいました。蜂の穴や、養蜂の箱、大きなハウノキの葉、ムササビの巣、水源の水、いろいろ見つけました。



栗畑に入って、一面に落ちていたクリの葉の落葉集めに挑戦しました。持参のレジ袋にいっぱい詰め込んで、4年生がきれいにしてくれておいた、「山の宝箱」に次から次に運び込み、みるみるいっぱいになりました。



1年がかりで、腐葉土になり、山のカブトムシが卵を産みつけ、幼虫の収穫は3～4年生になるかも？

## 巨大テーブル・ベンチ作り（間伐材活用；小原宿活性化推進会議事業）：12月15日

砂防ダム工事で出た伐採の遺棄木をもらい受けて、木工班がベンチを作っている。

素人作りながらも良い味が出ている。まずは、相模湖町福祉協議会から15台の注文を受けている。この出来栄えが気に入った「小原宿活性化推進会議」から“小原の郷”に来訪客の休憩ベンチが欲しいとの要請を受けて巨大テーブル・ベンチを作った。



テーブル・ベンチ作りは、桂北小学校6年生の木工体験教室を兼ねて実施した。指導は、桂北小・中田先生、斎藤・川田・松尾会員。

成るべく、大径木を選んで野誼に富んだ趣を出すように工夫した。出来上がりは、写真の通り。桂北小・6年生も満足・満足。「小原の郷・展示館」に立ち寄ってくれるハイカーたちも興味深げに見物しているが、こんな事も通して森に親しんでくれることも狙いでもある。

当会の小原本陣の森活動は、森林整備だけでなく相模湖町・小原地域の活性化も事業計画に織り込んでいる。これは、FSCの指導でもある「環境・経済の調和、地域社会の活性化」に従った活動でもある。小原の森に取り組んで4年目に入るが、このような形で具現化出来ている。

## 中里山：協力協約・完了検査（小原本陣の森）：12月16日

報告：石村

中里山整備は、前年0.75ha、本年1.3ha、計2haを小島建設の協力を得て2年間に分けて実施した。

その理由 ① 月1活動の森林ボランティアの作業量は、微々たるもので技量も遅拙である。

② 助っ人として地元の小島建設に協力を仰いだのだが、小島建設も森林は未だ、未経験分野。

\* 林業の担い手が減る一方で、新たな担い手づくりを視野に置いて小島建設に協力を仰いだ。



そこで、前年は、0.75haと狭い範囲を試みた。結果は惨敗。5月まで手直しをして完了した。但し、作業認可の下りたのが年度末の2月に入ってから。申請の仕方（慣れていないので）にも問題があった。

前年の反省を込めて速め早めに作業を進めて許可は今年は、7月に下りた。9月に作業に入り、10月末に“一応”作業が終わって15日の検査日となった。前年とは見違える成果を得たが、以下の宿題が出た。

1 切り口・追い口の基本伐採が出来ていない。

- 2 伐高が高い。30cm以内にする事。
- 3 6m以上の枝打ち、蔓切りが不十分である。
- 4 間伐間隔が疎らになっている。美しい森づくり心がけることも必要。

これらの注意を得て一応の検査OKが出たが、残る3回の活動日に手直しをして報告する。

## 臨時活動報告：ファミリーチャレンジ：環境体験教室：11月28日、

主催；神奈川県教育委員会 於：海老名市民会館

産官学のこのシンポジウムに世田谷の「NPO 法人みんなの森」の協力を得て、唯一市民団体として当会も参加した。指定要請の内容は・・・、1、活動のパネル展示 2、緑のダム・FSC材積木の出品。

驚いたのは、入場者の多い事であった。どのブース（出展会場）でも長い行列が出来て、10分～20分待ちは当たり前前状況。盛会に付いては、川崎や相模原のネイチャーフェスティバルで経験しているが、海老名でのこのイベントの列をつくるこのファミリーチャレンジ体験教室の大盛況は一体、何故か

\* 盛会の理由を、会場のあちこちを見ながら考えてみた。

1、“ファミリーチャレンジ”という呼びかけ、環境体験というテーマが良い。

・家族連れが多い事が目立った。一家族3人として考えれば入場者が多い事が分かる。家族ぐるみで楽しんでいる光景が目立った。

2、産・官・学・民、の異業種に意見発表の場として事務局の広報が徹底していたこと。

3、JR、小田急、海老名駅前のロケーション。



天井まで届いてしまった。積み木の精度が高い証拠だ

2日後、事務局から参加お礼と“次回もお願いします。何かご意見を下さい”の丁寧な電話があった。

・・・ので、「ボランティア活動は、交通費も用弁費も自腹参加が原則で、今回の出品には約4万円を出して参加しています、然るに他の出品者は、財団・社団・企業などですから、お金（予算）の出どころがあつての参加です。ボランティア、NPO参加には、然るべき配慮・対策をして下さい」と伝えた。

## R16（国道16号線）をつなぐシンポジウム：11月27日（土）、 於・町田ラ・ポール会館

共催：八王子・町田・相模原：合同商工会議所

国道16号線をつなぐ三商工会議所（八王子・町田・相模原）合同の“環境とモノづくりシンポジウム”が町田市のラ・ポール会館で行われた。それぞれの会議所から、その市を代表して各業種の環境関連の商品開発の紹介があった。相模原商工会議所からは、当会が業種・商品開発の紹介をする事となった。商工会議所から、森林NPOに産業開発事例を発表させて貰えるのは嬉しい。「環境・経済・社会の調和」を言続けているものだから、「では、何か言ってみろ！」ということになったのだろう。



相模原市が旧津久井4町を合併して一挙に市域が3.6倍、緑比率が58%になっている。合併後、予てから相模原市には、その地理的な条件から当会は、「Green hub city になれ」と提案し続けている。相模川上流には山梨・長野・新潟と一大森林資源生産地帯が広がり、下流には神奈川・東京と2000万人消費人口がある。世はまさに「環境問題；CO<sub>2</sub>、温暖化対策」で沸騰している。それなら、森林資源の活用こそ一大産業創出のビッグチャンスだと言うのが当会の主張である。

- ① 木材生産・製材・建築    ② パルプ    ③ 木質バイオマスエネルギー利用：地域冷暖房、売電  
・更に、新たな森林資源の新産業創出・・・リグニン、セルローズ、炭化剤、エタノールなど

- ・当会では既に、神奈川県木材市場では100年生の杉が1立米1万円だという。価格に納得できず、小牧市場（名古屋）に送ったら、6～8万円の価格が付いた。それは松坂で製材して紀州材ブランドに化けてしまった。神奈川県産材が、紀州材に化ける木材の流通機構に問題がある。森林の荒廃を招く一因だ。
- ・当会の「緑のダム FSC 材積木」は、1立米の間伐材が、60万円の木製品になった。良く売れている。
- ・私の本職は、空気清浄装置だ。400円/kgの木炭を、酸化チタンを触媒に使用して有害ガスの吸着分解剤に仕上げ、6000円/kgで売っている。
- ・太陽エネルギーをため込んだ炭素の塊・木は加工の仕方で並はずれた利益を生み出す出発原料なのだ。

こんな事例・実績を挙げて、八王子・町田・相模原市の商工会議所主催のシンポジウムの場で話したら、「自由で柔軟な森林NPOの言う事は面白い。森林はお金にならないと決めつけていたが、視点を変えて考え直して見よう」と、多数の意見が寄せられた。

## 相模原市へ「内陸・Green hub city」の働きかけ

相模原市は、相模川上流はJR中央線に沿って山梨・長野・新潟と言った森林資源・木材の生産地に至る。  
下流には、神奈川890万人・東京1200万人。合計2100万人の消費人口のジョイント地区に位置する。「森林環境・経済・社会の調和」を理念に掲げる当会として、この地の利を見落とす筈はない。

リニア新線や圏央道の交差が計画に入っており、中央道・JR中央線・国道16号線・小田急線・京王線、JR横浜線などが相模原市に乗り入れており、加山・相模原市長が、相模原市は「内陸ハブシティを目指す」とマニフェストした。当会はそれなら、森林資源も生かす「内陸Green hub city」を目指せと提案している。

日本経済新聞の記事を引用しましたが、ウェブページでは著作権の関係から省略しました。

興味ある方は

相模原市長「都市の総合力向上を」という記事をご覧ください。

地球温暖化問題が沸騰して森林のCO2固定化が急速に浮上している。神奈川県も「水源環境の保全・再生」を強力に進めている折柄、相模原市上流森林地域の活性化を見落とす訳には行かない。まずは、市の環境経済局に、この考えを提案しているが、市議会にも働き掛ける事とした。

5年前から、都市産業研究会（相模原市商工会議所の活動部会）とは、協働体制にあり昨年から中村会長とも交流がある。都市産業研究会の活動テーマは「自然・産業・人」である。相模原市も政策の核に、これを取り入れている。当会の活動の核は「環境・経済・社会」であり、これら三者が同一方向を向いている。

都産研の中村会長は、市議会議員でもある。このような事から市議会とも連絡がつくようになっている。但し、当会活動は政治に関わらないとしている。この点、どのような距離感を保つかが今後の課題となる。

## ・平成21年、この一年

石村 黄仁

兎も角、実り多い年であった。

先ず、森仲間たちが一つの想い（理念：森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない）に結束して唯、直向きに森林活動を実践してきた事。定例活動は278回を重ねるが、雨でも休まず続した。臨時活動・広報イベントを加えれば優に500回は積み上げただろう。一回毎の蓄積は微々たるものだが、“継続は力”・・・、神奈川県や相模原市に森林の実践の現場から、政策提言のできるまでになっている。

将来に向けて楽しみな事がある。

相模原市が来年4月から、全国19番目の特別政令都市になる事である。その相模原市に当会は地の利を生かした「内陸・Green hub cityになれ！」と働きかけている。

若し、相模原市が、これを聞き入れてくれて行動を共にしてくれれば、10年～20年後には、間違いなく我が国の森林・林業政策に新しい道筋を付けるだろう。

この主張に続々と様々な団体が、集結し始めている。相模川流域の源流・上流・中流・下流を繋いで、「市民+学際+業際+行政・司法・立法・・・全ての人々を繋いで、一人の専門家より99人の普通の人々の協働」で行動が始まっている。相模川流域で結果を出して全国に発信する。

.....  
・活動のモットー : 急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・・。そして、沢山の参加で森は、良くなる。

・名 称 : 特定非営利活動法人 緑のダム北相模

・事務局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人 : NPO 緑のダム北相模 運営委員会 03-3411-1636

H P : <http://midorinodam.jp> E-mail: [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)

・協働団体 : 神奈川県（政策部・環境農政部・県央地域総合センター森林課）、セブーンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、毎日新聞社水と緑地球環境本部、社）国土緑化推進機構

ご支援団体 : WWF/JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京、東急コミニテイ、東海大付属・望星高校